

A dark, textured background map of China and surrounding regions, including parts of Korea, Japan, and Southeast Asia. The map is rendered in a muted, historical style with brown and green tones.

中国の文化Ⅸ 第14回

北宋時代(下)

三国志の誕生

俗文学Ⅱ庶民文学の時代へ

唐宋変革期を経て、中国社会は貴族の時代から庶民の時代へと姿を変え、文学の主体も貴族から庶民へと移っていく。

韻文での詞の隆盛や本格的な演劇の誕生とともに、散文の世界でも庶民の言葉で綴られた物語が出版され、人気を博していた。その一つが『三国志平話』である。

史書の記録を素材に、仏教の絵解き講釈を模して編まれた『三国志平話』は、やがて中国の俗文学を代表する『三国志演義』へと発展していった。

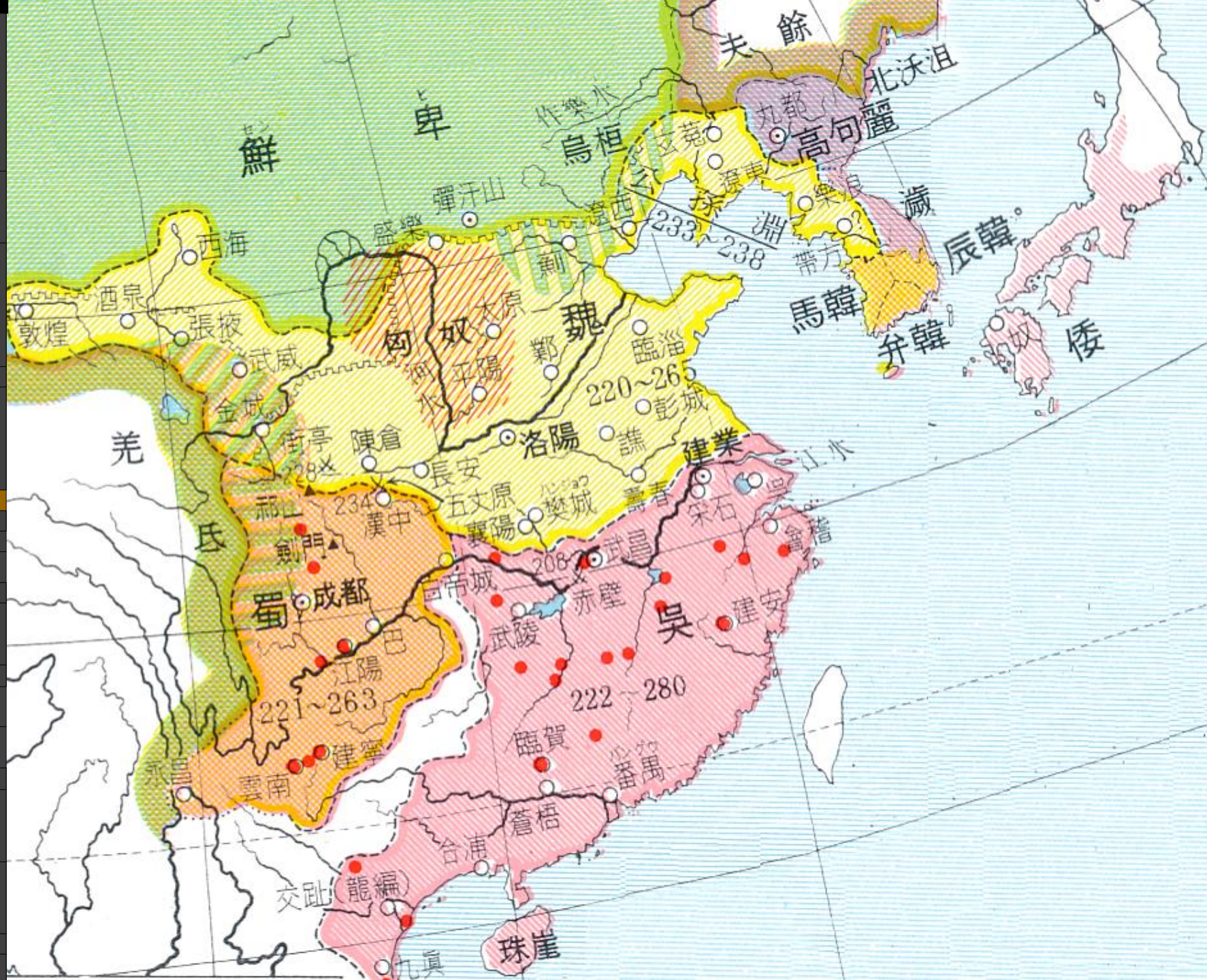


第五節

三国志の人物像

史実から虚構へ——「草船借箭」を例に

1600BC	殷 1600BC頃-1046BC		
1500BC			
1400BC			
1300BC			
1200BC			
1100BC	周 1046BC-771BC		
1000BC			
900BC			
800BC			
700BC			
600BC	春秋戦国時代 770BC-221BC		
500BC			
400BC			
300BC			
200BC			
100BC	秦 221BC-207BC		
0	漢 206BC-220AD		
100			
200			
300			
400			
500	魏 220-265	蜀 221-263	呉 222-280
600	晋 265-316		
700	五胡十六国時代		東晋 317-420
800	北朝 439-589		南朝 420-589
900	隋 581-619		
1000	唐 618-907		
1100			
1200			
1300			
1400			
1500	五代十国 907-960		
1600			
1700			
1800			
1900			
2000	遼	北宋 960-1127	
	金 1115-1234	南宋 1127-1279	
	元 1271-1368		
	明 1368-1644		
	清 1616-1912		
	中華民國 1912-1949		
	中華人民共和國 1949-		



なぜ三国志の登場人物には、たとえば劉備と劉玄德のように、複数の名前があるのですか？

蜀書一

蜀書一

三國志三十一



蜀書二

三國志三十二

先主傳第二

先主姓劉諱備字玄德涿郡涿縣人漢景帝子中山靖王勝之後也勝子貞元狩六年封涿縣陸城亭侯坐酎金失侯因家焉典略曰涿縣屬本臨

邑侯枝屬也先主祖雄父弘世仕州郡雄舉孝廉官至東郡范令先主少

孤與母販履織席爲業舍東南角籬上有桑樹生高五丈餘遙望

見童子如小車蓋往來者皆怪此樹非凡或謂當出貴人漢晉春秋曰涿人李

定云此家必出貴人先主少時與宗中諸小兒於樹下戲言吾必當乘此羽葆

蓋車叔父子敬謂曰汝勿妄語滅吾門也年十五母使行學與同

宗劉德然遼西公孫瓚俱事故九江太守同郡盧植德然父元起

常資給先主與德然等元起妻曰各自一家何能常爾邪起曰吾

宗中有此兒非常人也而瓚深與先主相友瓚年長先主以兄事

「諱」（いみな）と「字」（あざな）

正史『三国志』の中の蜀先主（劉備）
伝。

中国には「避諱」（本名の濫用を避
けること）の習慣があったため、諱（い
みな）である「備」のほかに、字（あざ
な）の「玄德」が併記されている。

蜀書一

西川志
氏圖山南

三國志三十一

蜀書二

三國志三十二

先主傳第二

先主姓劉諱備字玄德涿郡涿縣人漢景帝子中山靖王勝之後
也勝子貞元狩六年封涿縣陸城亭侯坐酎金失侯因家焉典略曰
備本臨

邑侯枝
屬也

先主祖雄父弘世仕州郡雄舉孝廉官至東郡范令先主少

孤與母販履織席爲業舍東南角籬上有桑樹生高五丈餘遙望

見童子如小車蓋往來者皆怪此樹非凡或謂當出貴人漢晉春秋
曰涿人李

定云此家
必出貴人

先主少時與宗中諸小兒於樹下戲言吾必當乘此羽葆

蓋車叔父子敬謂曰汝勿妄語滅吾門也年十五母使行學與同

宗劉德然遼西公孫瓚俱事故九江太守同郡盧植德然父元起

常資給先主與德然等元起妻曰各自一家何能常爾邪起曰吾

宗中有此兒非常人也而瓚深與先主相友瓚年長先主以兄事

三国志の人物像

清の章学誠が「七実三虚にして観る者を惑乱す」*と批判したように、『三国志演義』には登場する人物像を際立たせるために虚実を織り交ぜたところも少なくない。

ここでは天才軍師・諸葛孔明が、赤壁の戦いのため、三日間で十万の矢を用意したという「草船借箭」の故事を取り上げ、その人物像が虚実を織り交ぜながら、どのように形成されているのかを考えてみたい。

*（清）章学誠『丙辰雜記』



資料映像：中国テレビドラマ「三国」（高希希監督、2010年）より（02:30）

三国志演義の梗概(三)

董卓を討伐した後、朝廷の実権を握った曹操は、劉備、孫権を討つため南進を始める。

三顧の礼をもって劉備の軍師に迎えられた諸葛亮(字は孔明)は、孫権と連合して曹操を迎え撃つ。

孔明の智謀に脅威を感じた周瑜(字は公瑾・写真)は、孔明を亡き者にするため、三日の間に十万の矢を用意することを約束させる。





資料映像：中国テレビドラマ「三国」（高希希監督、2010年）より（09:46）

三国志演義の梗概(四)

孔明(写真)は、魯肅(字は子敬)に二〇艘の船を用意させ、これらの船に藁束を乗せて長江を渡り、曹操の陣営に向かう。

濃霧の中、突然の来襲に驚いた曹操は、策略に陥るのを恐れて、敵船に向かい大量の矢を射掛ける。

孔明は船を呉に返し、藁束に刺さった矢、計十万本あまりを周瑜に献上する。(草船借箭)



1600BC	殷 1600BC頃-1046BC	
1500BC		
1400BC		
1300BC		
1200BC		
1100BC	周 1046BC-771BC	
1000BC		
900BC		
800BC		
700BC	春秋戦国時代 770BC-221BC	
600BC		
500BC		
400BC		
300BC		
200BC	秦 221BC-207BC	
100BC	漢 206BC-220AD	
0		
100		
200		
300	魏 220-265	蜀 221-263 吳 222-280
400	晋 265-316	
500	五胡十六国時代	東晋 317-420
600	北朝 439-589	南朝 420-589
700	隋 581-619	
800	唐 618-907	
900		
1000	五代十国 907-960	
1100	遼	北宋 960-1127
1200	金 1115-1234	南宋 1127-1279
1300	元 1271-1368	
1400	明 1368-1644	
1500		
1600		
1700	清 1616-1912	
1800		
1900		
2000	中華民国 1912-1949	
	中華人民共和國 1949-	



西晋の陳寿が正史『三国志』を著す

正史が伝える「草船借箭」

後漢の建安十八年（西暦二一三年）正月、曹公（操）は濡須を攻め、（孫）権と一ヶ月あまり対峙した。曹公は権の軍を眺めて、その整然としたようにすに感歎し、引き上げた。

（晋）陳寿『三国志』呉書二

退士卒饑疫死者大半備瑜等復追至南郡曹公遂北還留曹仁徐晃於江陵使樂進守襄陽時甘寧在江陵爲仁黨所圍用呂蒙計留凌統以拒仁以其半救寧軍以勝反權自率眾圍合肥使張昭攻九江之當塗昭兵不利權攻城踰月不能下曹公自荊州還

遣張喜將騎赴合肥未至權退

十四年瑜仁相守歲餘所殺傷甚眾仁委城走權以瑜爲南郡太守劉備表權行車騎將軍領徐州牧備領荊州牧屯公安

十五年分豫章爲鄱陽郡分長沙爲漢昌郡以魯肅爲太守屯陸口

十六年權徙治秣陵明年城石頭改秣陵爲建業聞曹公將來侵作濡須塢

十八年正月曹公攻濡須權與相拒月餘曹公望權軍歎其齊肅

乃退

乃退吳歷曰曹公出濡須作油船夜渡洲上權以水軍圍取得三千餘人其沒溺者亦數千人權數挑戰公堅守不出權乃自來乘輕船從濡須口入公軍諸將皆以爲是挑戰者欲擊之公曰此必孫權欲身見吾軍部伍也勅軍中皆精嚴弓弩不得妄發權行五六里迴還作鼓吹公見舟船器械軍伍整肅喟然歎曰生子當如孫仲謀劉景升兒子若豚犬耳權爲賤與曹公說春水方生公宜速去別紙言足下不死孤不得安曹公語諸將曰孫權不欺孤乃徹軍還魏略曰權乘大船來觀軍公使弓弩亂發箭著其船船偏重將覆權因迴船復以一面受箭箭均船平還

初曹公恐江濱郡縣爲權所略徵令內移民轉相驚自廬江九

1600BC
1500BC
1400BC
1300BC
1200BC
1100BC
1000BC
900BC
800BC
700BC
600BC
500BC
400BC
300BC
200BC
100BC
0
100
200
300
400
500
600
700
800
900
1000
1100
1200
1300
1400
1500
1600
1700
1800
1900
2000

殷 1600BC頃-1046BC		
周 1046BC-771BC		
春秋戦国時代 770BC-221BC		
秦 221BC-207BC		
漢 206BC-220AD		
魏 220-265	蜀 221-263	吳 222-280
晋 265-316		
五胡十六国時代		東晋 317-420
北朝 439-589	南朝 420-589	
隋 581-619		
唐 618-907		
五代十国 907-960		
遼	北宋 960-1127	
金 1115-1234	南宋 1127-1279	
元 1271-1368		
明 1368-1644		
清 1616-1912		
中華民國 1912-1949		
中華人民共和國 1949-		



西晋の陳寿が正史『三国志』を著す

南朝宋の裴松之が正史『三国志』に注をつける

裴松之注が伝える「草船借箭」

『魏略』にいう。孫權が大船に乗って軍の視察に来た時、曹公（曹操）が弓弩を乱射させ、その重みで船が傾き、転覆しそうになった。

孫權は船の向きを変えさせると、もう一方の舷で箭を受け止めた。すると箭の重さが釣り合い、船は水平になって還っていった。

退士卒饑乏（晋）陳寿『三国志』吳書二（南朝宋）裴松之注徐晃於江陵使樂進守襄陽時甘寧在江陵爲仁黨所圍用呂蒙計留凌統以拒仁以其半救寧軍以勝反權自率眾圍合肥使張昭攻九江之當塗昭兵不利權攻城踰月不能下曹公自荊州還

遣張喜將騎赴合肥未至權退

十四年瑜仁相守歲餘所殺傷甚眾仁委城走權以瑜爲南郡太守劉備表權行車騎將軍領徐州牧備領荊州牧屯公安

十五年分豫章爲鄱陽郡分長沙爲漢昌郡以魯肅爲太守屯陸口

十六年權徙治秣陵明年城石頭改秣陵爲建業聞曹公將來侵作濡須塢

十八年正月曹公攻濡須權與相拒月餘曹公望權軍歎其齊肅

乃退吳歷曰曹公出濡須作油船夜渡洲上權以水軍圍取得三千餘人其沒溺者亦數千人權數挑戰公堅守不出權乃自來乘輕船從濡須口入公軍諸將皆以爲是挑戰者欲擊之公曰此必孫權欲身見吾軍部伍也勅軍中皆精嚴弓弩不得妄發權行五六里迴還作鼓吹

公見舟船器械軍伍整肅喟然歎曰生子當如孫仲謀劉景升兒子若豚犬耳權爲賤與曹公說春水方生公宜速去別紙言足下不死孤不得安曹公語諸將曰孫權不欺孤乃徹軍還魏略

日權乘大船來觀軍公使弓弩亂發箭著其船船偏重將覆權因迴船復以一面受箭箭均船平

乃初曹公恐江濱郡縣爲權所略徵令內移民轉相驚自廬江九



1600BC
1500BC
1400BC
1300BC
1200BC
1100BC
1000BC
900BC
800BC
700BC
600BC
500BC
400BC
300BC
200BC
100BC
0
100
200
300
400
500
600
700
800
900
1000
1100
1200
1300
1400
1500
1600
1700
1800
1900
2000

殷 1600BC頃-1046BC		
周 1046BC-771BC		
春秋戦国時代 770BC-221BC		
秦 221BC-207BC		
漢 206BC-220AD		
魏 220-265	蜀 221-263	吳 222-280
晋 265-316		
五胡十六国時代		東晋 317-420
北朝 439-589	南朝 420-589	
隋 581-619		
唐 618-907		
五代十国 907-960		
遼	北宋 960-1127	
金 1115-1234	南宋 1127-1279	
元 1271-1368		
明 1368-1644		
清 1616-1912		
中華民國 1912-1949		
中華人民共和國 1949-		

西晋の陳寿が正史『三国志』を著す

南朝・宋の裴松之が正史『三国志』に注をつける

元で『全相平話三国志』が出版される



平話が描く「草船借箭」

周瑜は天幕を張った船に乗った。

曹操が矢を射掛けると、周瑜の船は左舷に矢を受けた。漕ぎ手に命じて船の向きを変えさせると、今度は右舷に矢を受けた。しばらくすると船は矢でいっぱいになり、周瑜は数百万本の矢を手に入れた。

周瑜は喜んでいった。「宰相殿、矢をありがとう！」

〔唐〕張巡の「草人借箭」

城の中で矢が尽きると、張巡は藁を縛って千体余りの人形を作り、黒い衣を着せて、夜に城から降ろした。

（安祿山軍の大將である）令狐潮の兵は、先を争うように矢を射かけたが、しばらくしてようやく藁の人形と気づいた。（人形を）城の中に戻すと、数十万本の矢を得た。

その後、再び人を降ろすと、賊軍は笑って備えようとしな^い。そこで決死隊の五百人が潮の陣営を襲い賊軍は大混乱となった。

新唐書卷一百九十二忠義伝

【解説】

張巡（七〇九〜七五七）、安史の乱の際、睢陽城の戦いで殺された忠臣。

1600BC
1500BC
1400BC
1300BC
1200BC
1100BC
1000BC
900BC
800BC
700BC
600BC
500BC
400BC
300BC
200BC
100BC
0
100
200
300
400
500
600
700
800
900
1000
1100
1200
1300
1400
1500
1600
1700
1800
1900
2000

殷 1600BC頃-1046BC

周 1046BC-771BC

春秋戦国時代 770BC-221BC

秦 221BC-207BC

漢 206BC-220AD

魏 220-265	蜀 221-263	呉 222-280
晋 265-316		

五胡十六国時代	東晋 317-420
---------	------------

北朝 439-589	南朝 420-589
------------	------------

隋 581-619

唐 618-907

五代十国 907-960

遼	北宋 960-1127
---	-------------

金 1115-1234	南宋 1127-1279
-------------	--------------

元 1271-1368

明 1368-1644

清 1616-1912

中華民国 1912-1949

中華人民共和國 1949-

西晋の陳寿が正史『三国志』を著す

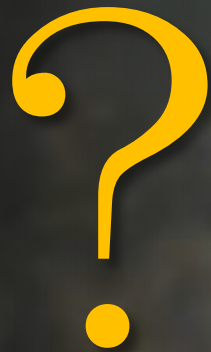
南朝・宋の裴松之が正史『三国志』に注をつける

北宋の都・開封の盛り場で“説三分”が人気を博す

元で『全相平話三国志』が出版される

明で羅貫中が『三国志通俗演義』を著す

曹操は何時代の人物か？



1600BC
1500BC
1400BC
1300BC
1200BC
1100BC
1000BC
900BC
800BC
700BC
600BC
500BC
400BC
300BC
200BC
100BC
0
100
200
300
400
500
600
700
800
900
1000
1100
1200
1300
1400
1500
1600
1700
1800
1900
2000

殷 1600BC頃-1046BC		
周 1046BC-771BC		
春秋戦国時代 770BC-221BC		
秦 221BC-207BC		
漢 206BC-220AD		
魏 220-265	蜀 221-263	呉 222-280
晋 265-316		
五胡十六国時代		東晋 317-420
北朝 439-589		南朝 420-589
隋 581-619		
唐 618-907		
五代十国 907-960		
遼	北宋 960-1127	
金 1115-1234	南宋 1127-1279	
元 1271-1368		
明 1368-1644		
清 1616-1912		
中華民国 1912-1949		
中華人民共和国 1949-		

曹操(155～220)



三国志演義の梗概(五)

赤壁の戦いから十二年後、曹操がこの世を去ると、その子曹丕はついに後漢を滅ぼし、ここに魏・呉・蜀の三国鼎立の時代を迎える。

劉備の蜀と孫権の呉の間には荊州の帰属をめぐって争いが絶えなかったが、関羽、張飛が相次いで非業の死を遂げると、劉備は諸葛孔明の反対を押し切って呉の討伐を行う。

しかし、戦いに敗れた劉備は、後事を孔明に託して、白帝城で病没する。(白帝城)

1600BC
1500BC
1400BC
1300BC
1200BC
1100BC
1000BC
900BC
800BC
700BC
600BC
500BC
400BC
300BC
200BC
100BC
0
100
200
300
400
500
600
700
800
900
1000
1100
1200
1300
1400
1500
1600
1700
1800
1900
2000

殷 1600BC頃-1046BC

周 1046BC-771BC

春秋戦国時代 770BC-221BC

秦 221BC-207BC

漢 206BC-220AD

魏 220-265 蜀 221-263 吳 222-280

晋 265-316

五胡十六国時代 東晋 317-420

北朝 439-589 南朝 420-589

隋 581-619

唐 618-907

五代十国 907-960

遼 北宋 960-1127

金 1115-1234 南宋 1127-1279

元 1271-1368

明 1368-1644

清 1616-1912

中華民國 1912-1949

中華人民共和國 1949-



1600BC
1500BC
1400BC
1300BC
1200BC
1100BC
1000BC
900BC
800BC
700BC
600BC
500BC
400BC
300BC
200BC
100BC
0
100
200
300
400
500
600
700
800
900
1000
1100
1200
1300
1400
1500
1600
1700
1800
1900
2000

殷 1600BC頃-1046BC

周 1046BC-771BC

春秋戦国時代 770BC-221BC

秦 221BC-207BC

漢 206BC-220AD

魏 220-265	蜀 221-263	呉 222-280
晋 265-316		

五胡十六国時代	東晋 317-420
---------	------------

北朝 439-589	南朝 420-589
------------	------------

隋 581-619

唐 618-907

五代十国 907-960

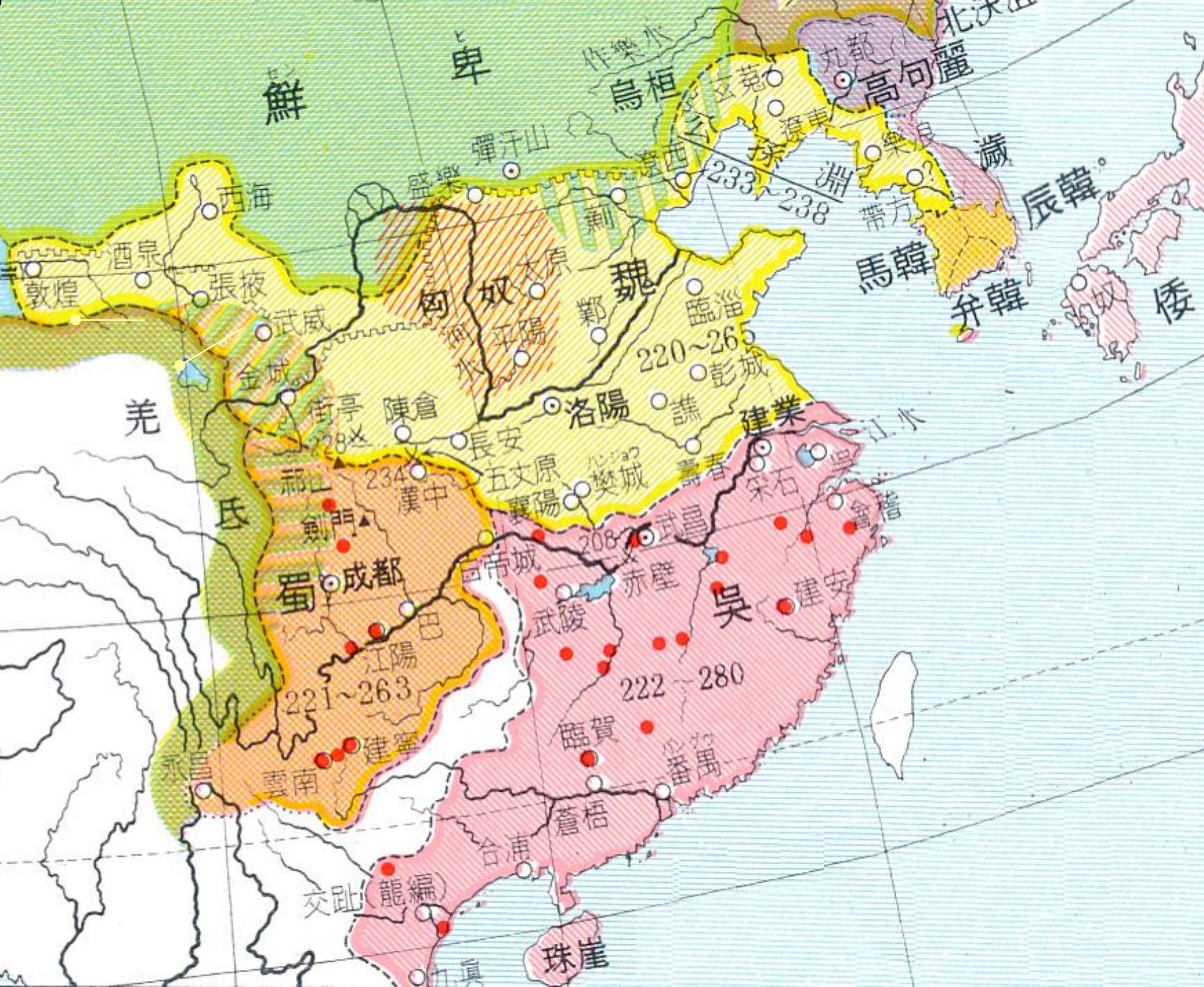
遼	北宋 960-1127
---	-------------

金 1115-1234	南宋 1127-1279
元 1271-1368	

明 1368-1644

清 1616-1912

中華民国 1912-1949
中華人民共和國 1949-



三国志演義の梗概(六)

孔明は劉備の子・禪を帝位につけ、呉と和議を結んで、宿敵・魏との戦いを続け、中原の奪回を目ざすが、ついに志を遂げぬまま五丈原で病没する。

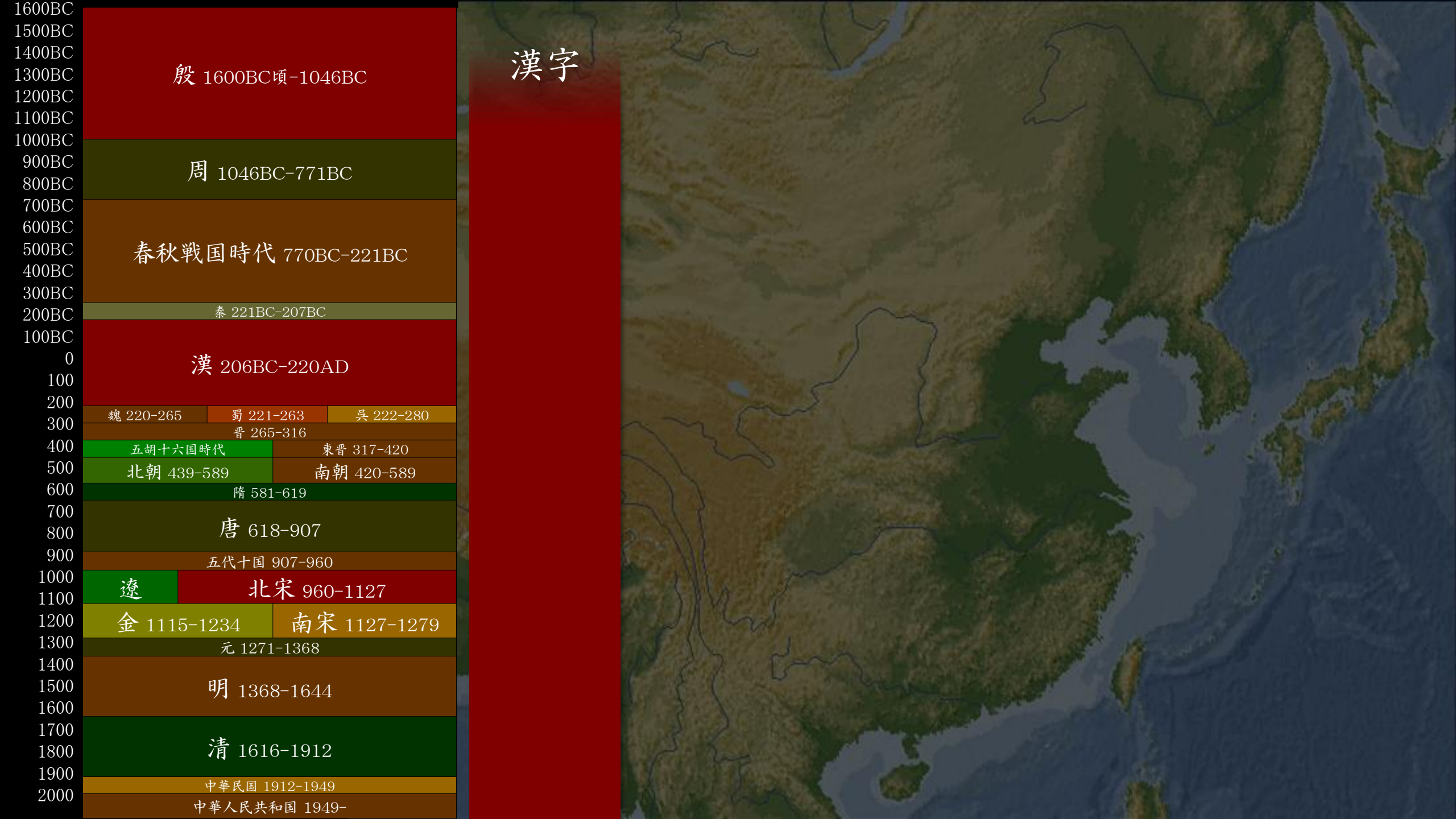
その後、蜀は魏に滅ぼされ、魏もまた家臣の司馬氏に国を奪われ、呉もまた司馬氏の建てた晋に滅ぼされ、天下統一により戦乱の時代に幕が降りる。

まとめ

この講義では、日本の文化にも多大な影響を与えた中国文化の歴史を、巨視的・微視的という二つの視点から通観した。

巨視的な視点からいえば、表意と表音という二つの機能を備えた漢字の発明は、言語を異にする東アジアの諸民族に漢語という共通言語

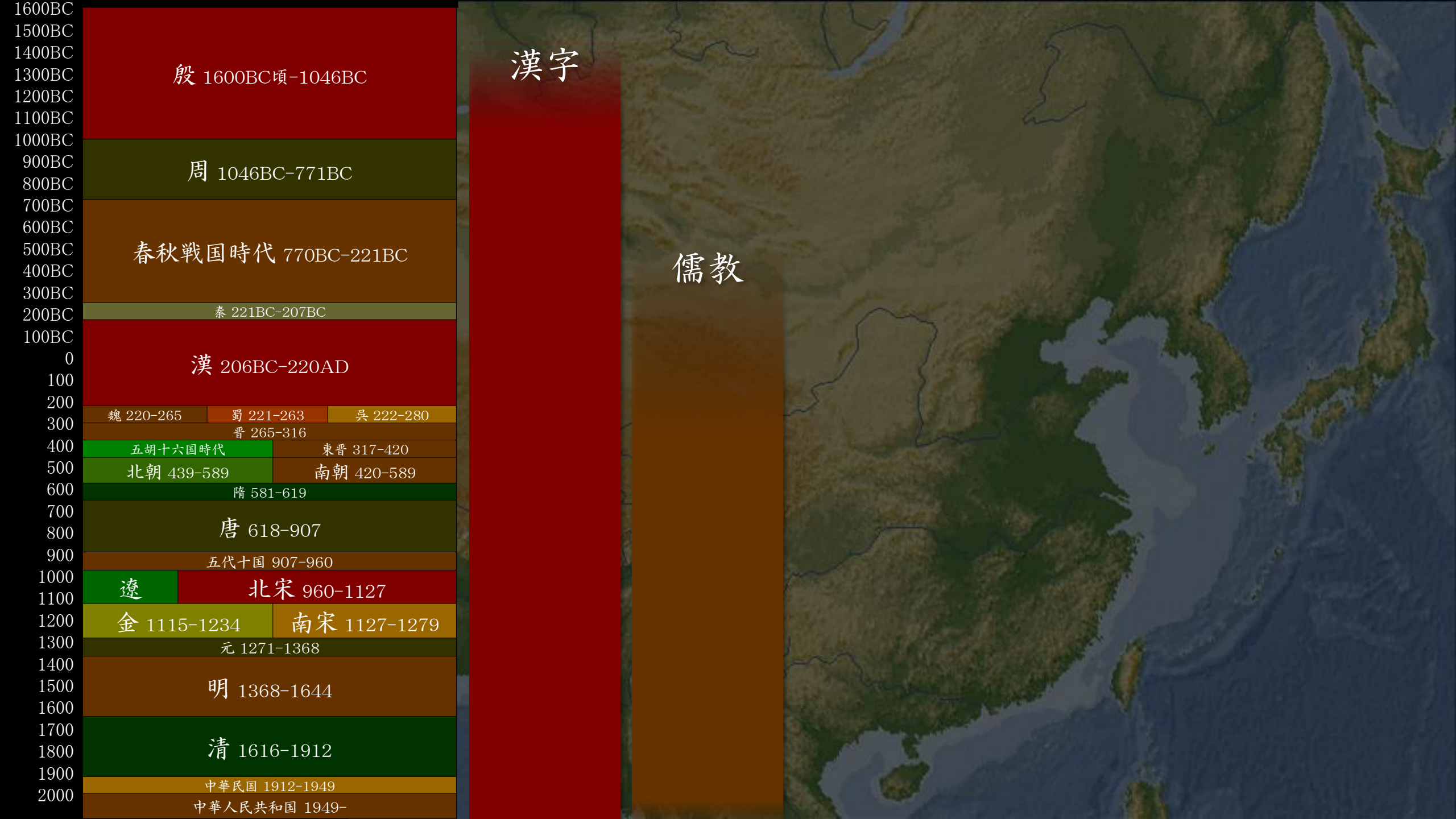
(Lingua Franca) を与え、それを基盤とする文明圏の成立と高度な精神的交流を可能にした。



漢字

まとめ

漢代以降、中国の国教となった儒教は、その後二千年余りにわたり中国の人々の精神的な支えとなるとともに、東アジアに倫理にもとづく国際秩序と社会秩序を与えた。

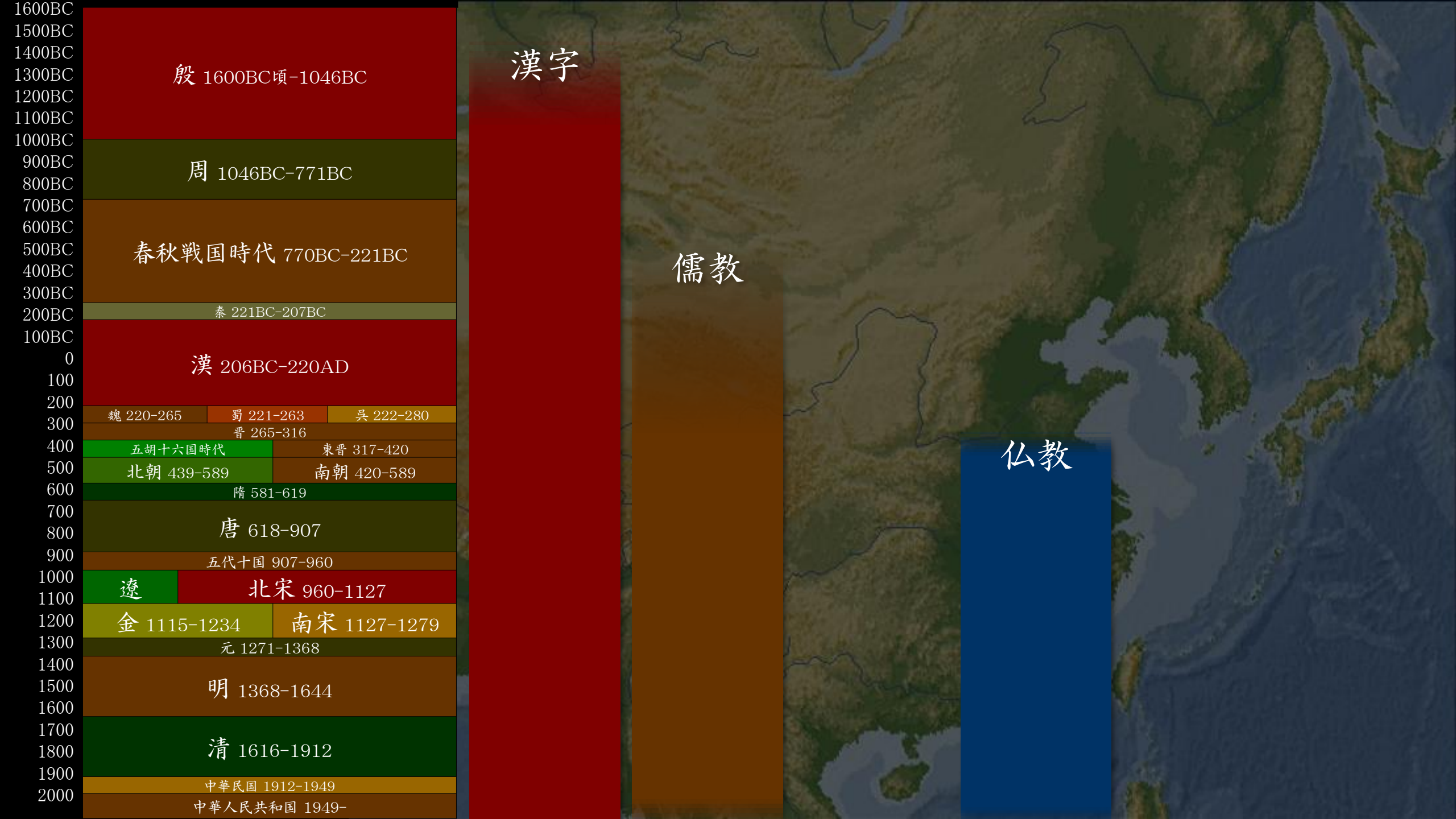


漢字

儒教

まとめ

魏晋南北朝時代、中国北方を支配した異民族の統治者たちは、漢民族の高度な文明に対抗し、支配下の諸民族を統合するため、西域から高僧を招いて国政のブレインとするとともに、サンスクリット語仏典を東アジアの共通言語である中国語に翻訳することにより、東アジアに仏教という世界宗教を成立させた。

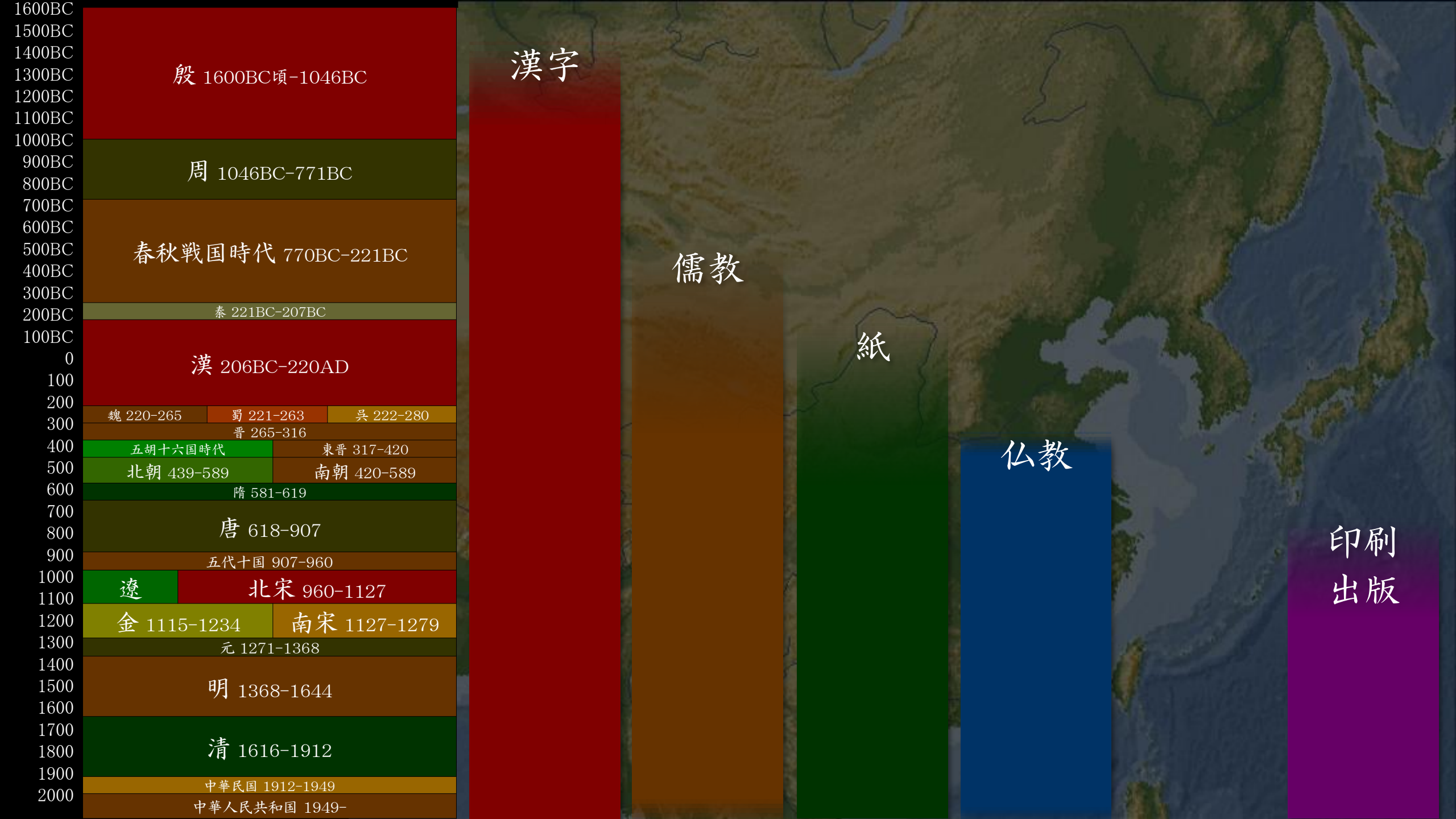


まとめ

科学技術の分野でも、中国は世界の文化の発展に大きく貢献している。

漢代に誕生した紙は、安価な書写材料として、広範な文化の記録と保存を可能にした。

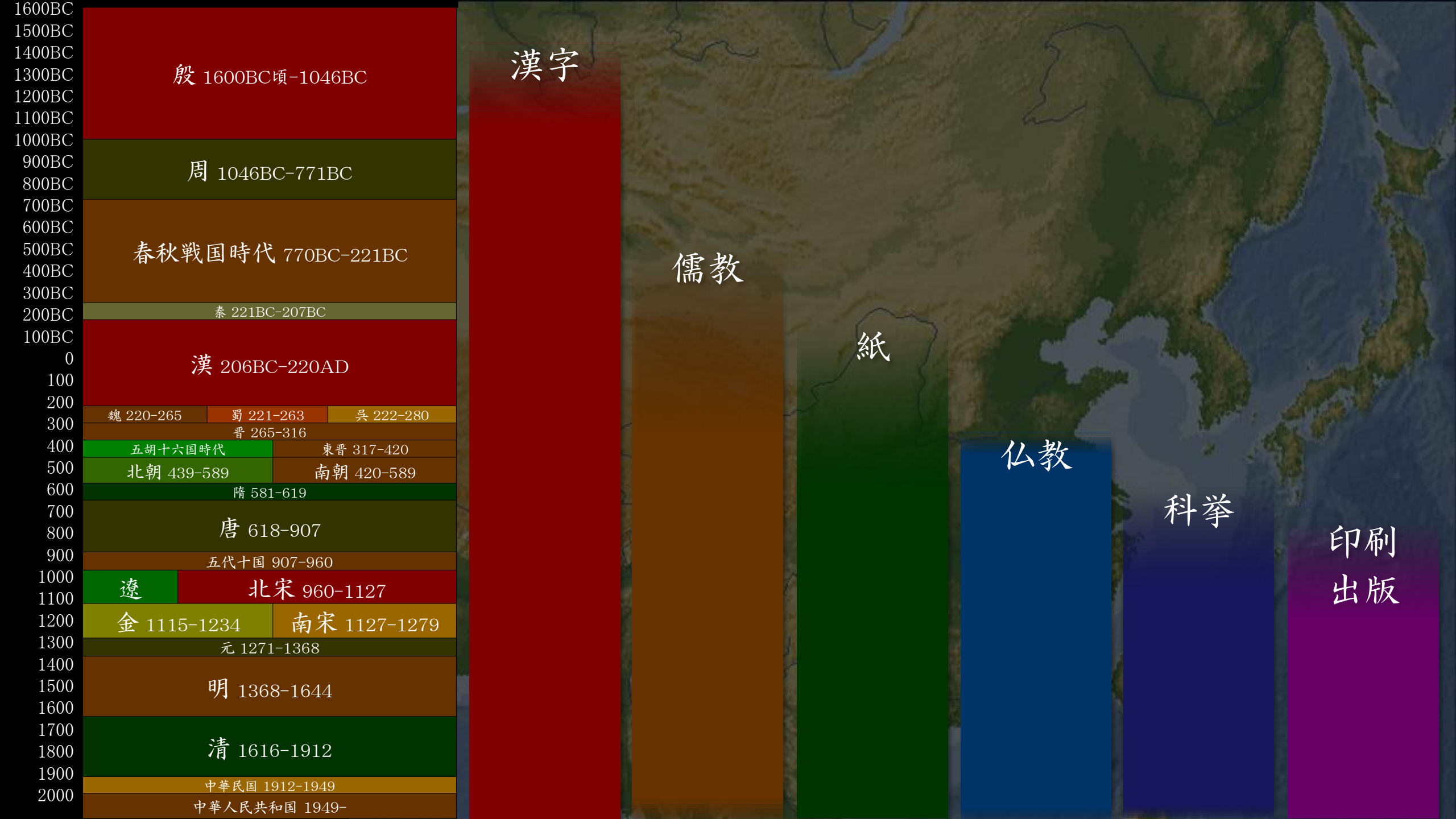
衆生の教化と救済をめざす仏教は、仏画や経典を大量に複製するため、印刷術の誕生と発展を促した。



まとめ

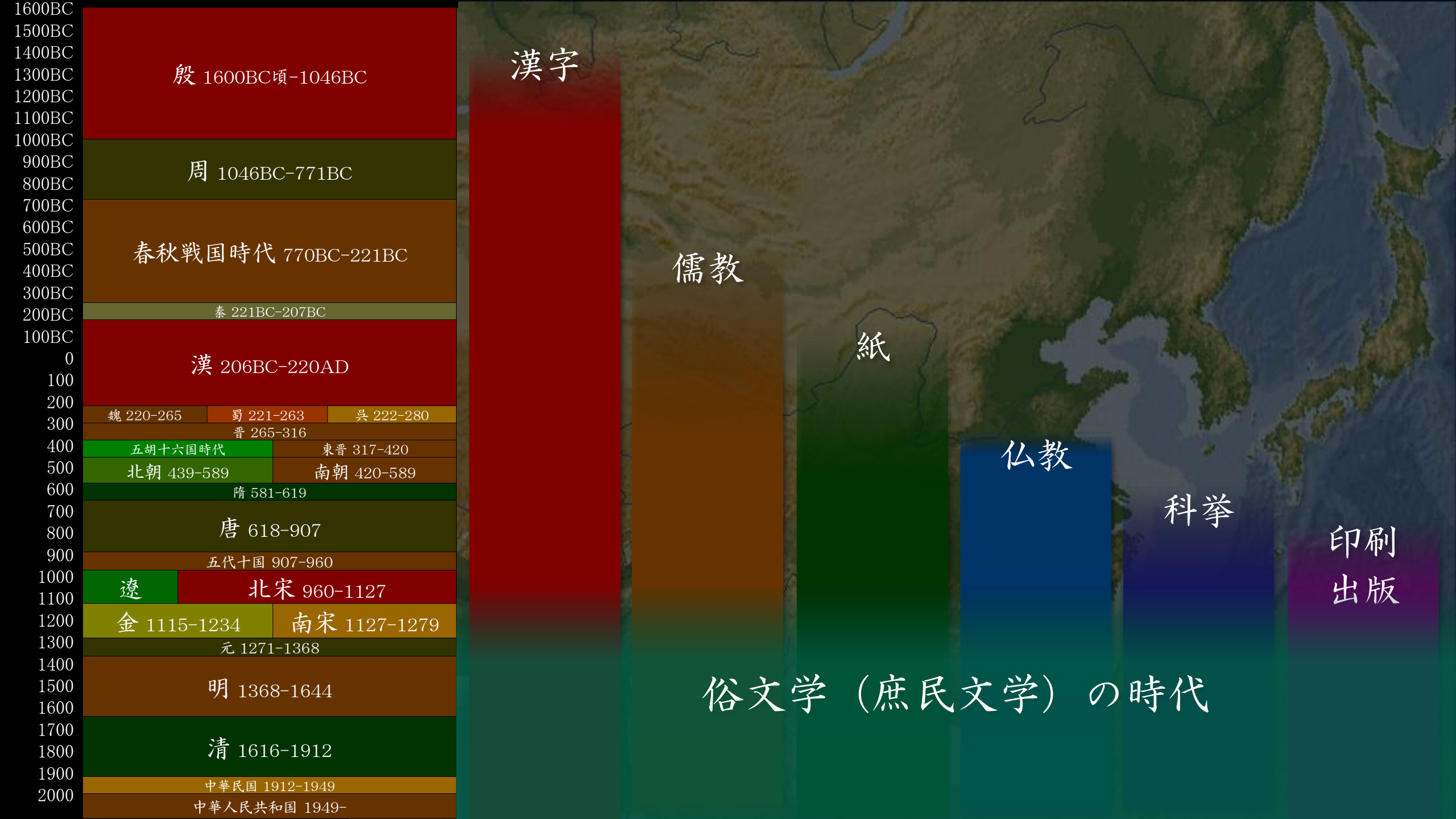
五代十国時代、門閥貴族に代わって政治の実権を握るようになった科挙出身の文人官僚たちは、唐末以来民間に芽生えていた出版技術の発展を促し、本格的な書籍出版の時代を招来した。

また、科挙制度による教育の普及は、庶民文化の発展を促した。



まとめ

北宋時代以降、中国文学の中心となる俗文学は、唐宋変革期を経て到来した庶民の時代に、これら諸文化を融合し、誕生したものである。



参考文献

■宮崎市定『科挙く中国の受験地獄』
(中公新書、一九六三年)

■平川祐弘『マテオ・リッチ伝1く
3』(平凡社東洋文庫、一九六九く
九七年)

■周作人著、水野正大訳『魯迅小説の
なかの人物』(新風社、二〇〇二
年)

■小川環樹「三国演義発展のあと」
(中国小説史研究、岩波書店、一九
六八年)

■立間祥介訳『全相三国志平話』(潮
出版社、二〇一一年)